

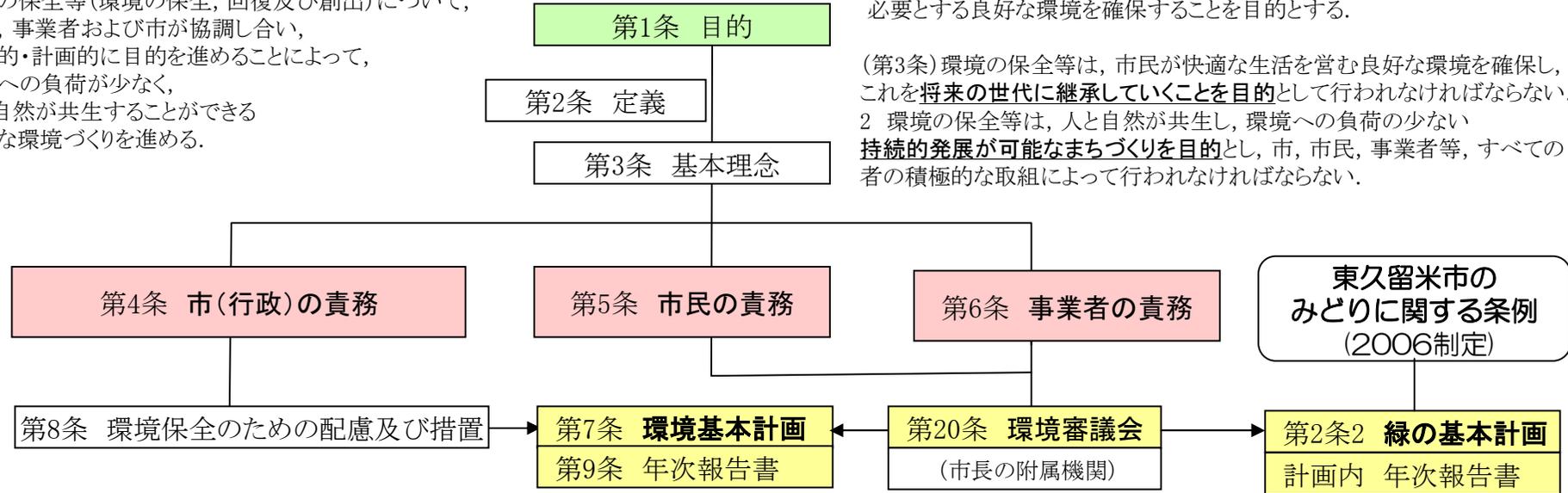
## 東久留米市環境基本条例 (2004制定)

(前文より)

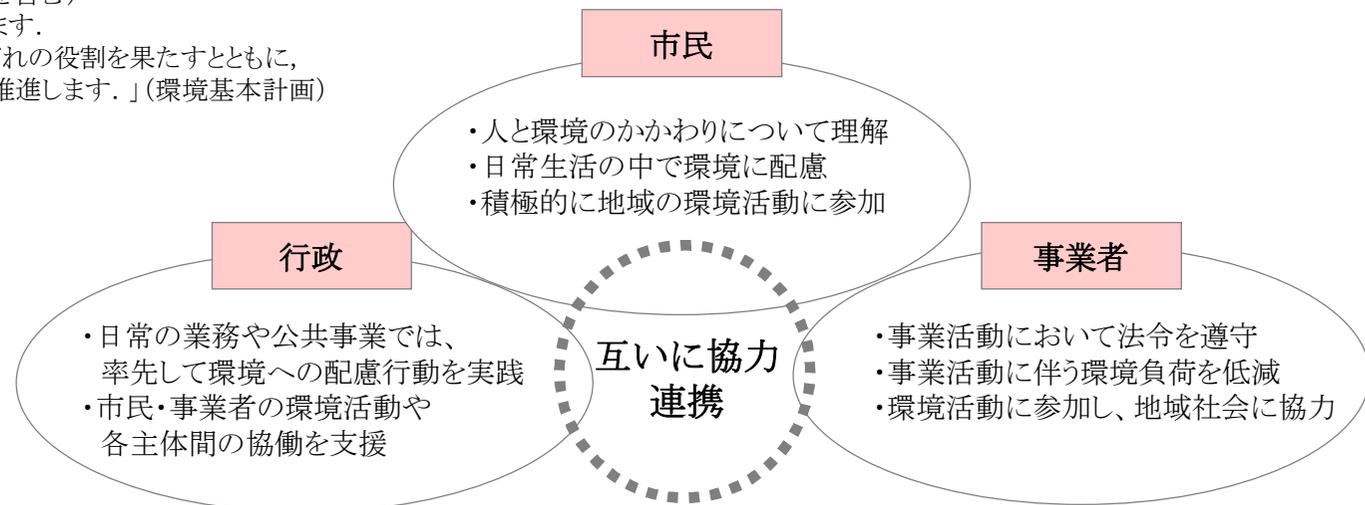
環境の保全等(環境の保全、回復及び創出)について、市民、事業者および市が協調し合い、総合的・計画的に目的を進めることによって、環境への負荷が少なく、人と自然が共生することができる良好な環境づくりを進める。

(第1条) 市、市民、事業者の責務を明らかにするとともに、環境の保全等に関する施策の基本的な事項を定め、施策を総合的・計画的に推進し、もって現在および将来の市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で必要とする良好な環境を確保することを目的とする。

(第3条) 環境の保全等は、市民が快適な生活を営む良好な環境を確保し、これを**将来の世代に継承していくことを目的**として行われなければならない。  
2 環境の保全等は、人と自然が共生し、環境への負荷の少ない**持続的発展が可能なまちづくりを目的**とし、市、市民、事業者等、すべての者の積極的な取組によって行われなければならない。



「この計画の推進主体は、市民(地域で活動する環境団体等を含む)・事業者(土地所有者や農業従事者等を含む)・行政(教育委員会や**学校を含む**)とします。各主体は、それぞれの立場で、それぞれの役割を果たすとともに、相互に協働して積極的に環境活動を推進します。」(環境基本計画)



出典: 東久留米市第2次環境基本計画(2016/3) p.4

# 東久留米市環境基本計画（+自由学園環境教育（9分野）とのリンケージ）

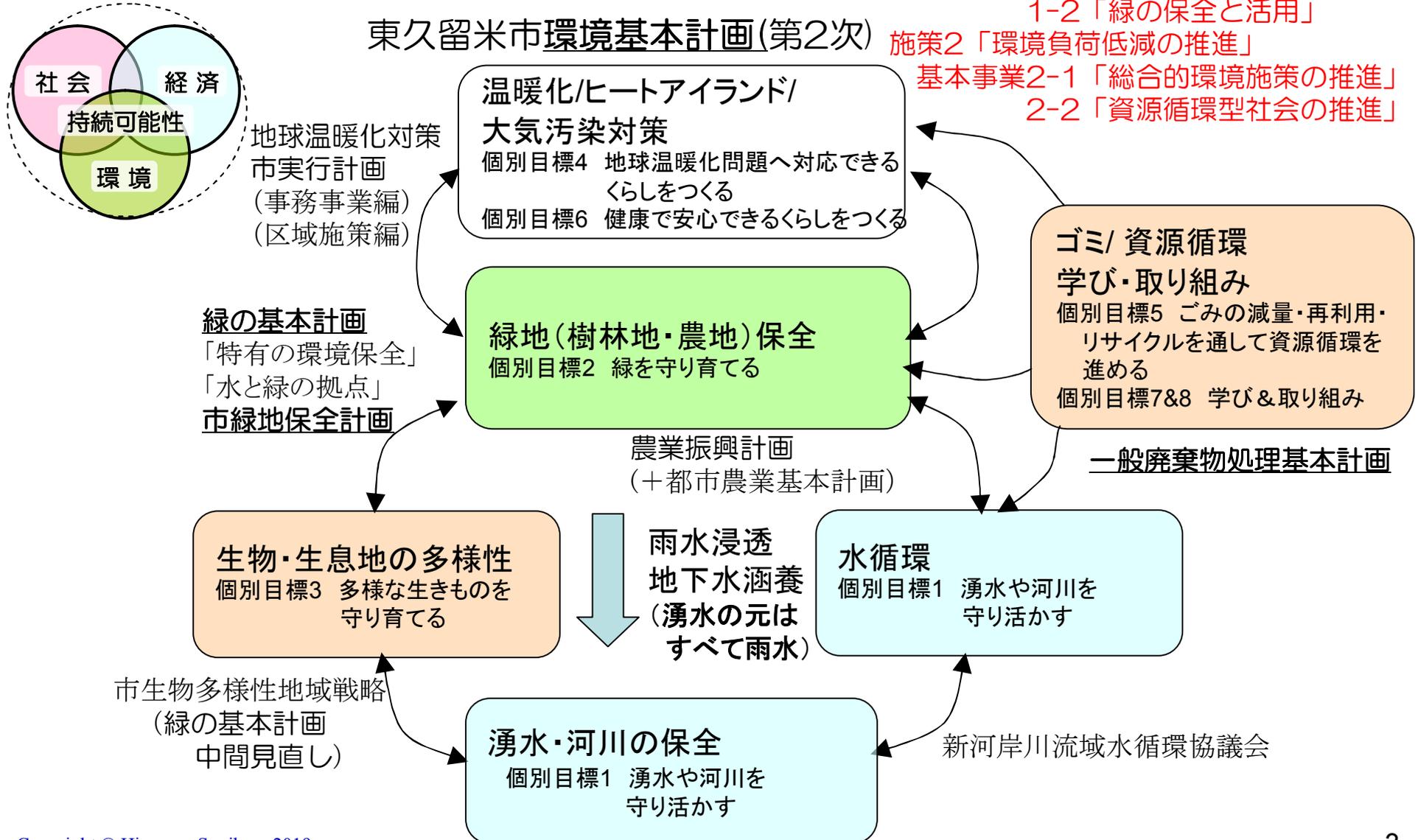
将来の環境像: 水と緑, 地球環境にやさしい暮らしをみんなで育むまち“東久留米”						
基本目標1			基本目標2			基本目標3
水と緑と生きものを守り育てる, 湧水・清流保全都市宣言のまち			地球環境対策に取り組む, 安心で美しいまち			みんなで取り組む 環境のまち
個別目標1	個別目標2	個別目標3	個別目標4	個別目標5	個別目標6	個別目標7
湧水や河川を 守り活かす	緑を守り育てる	多様な生きものを守り育てる	地球温暖化問題へ 対応できる 暮らしをつくる	ごみの減量・再 利用・リサイクル を通して 資源循環を進める	健康で安心できる 暮らしをつくる	環境について学び, 活動につなげる
施策の方向	施策の方向	施策の方向	施策の方向	施策の方向	施策の方向	施策の方向
①湧水や河川を 保全する ②健全な水循環を 回復し, 維持する ③水を汚さない → <b>農薬や化学肥料 を過剰に使用しない</b> ④ふれあいの場 として活かす	①樹林地・樹木を 保全する ②農地を保全する → <b>減農薬・無農薬・ 有機栽培等の普及</b> ③まちの緑を守り 育てる	①生きものの生息 ・生育環境を保全し 回復・創出する ②生きものに関する 調査と意識啓発を 行う ③外来生物種等の 対策を進める	①省エネルギーを進 める ②再生可能エネルギ ー等の利用を促進する ③まちづくりや交通な どの総合対策を進める ④地球温暖化対策の 総合的な方針を定め 実施する	①ごみの排出量を 抑制する ②リユース・ リサイクルを進める	①事業所や工場, 施 設等からの汚染を無くす → <b>農薬や化学肥料 を過剰に使用しない</b> ②近隣からの公害を 防ぐ ③公害を抑止する活 動を進める ④自動車の公害対 策を進める	①環境情報を共有し 活動につなげる ②学校や職場での 環境学習を進める ③地域社会を通じて 環境学習を進める
1.河川と水資源 (4.農と食)	2.森林と木の利用 4.農と食	3.生物多様性 (4.農と食)	7.気候変動 8.資源とエネルギー	5.住まいと暮らし (ゴミ問題を含む) 6.衣生活	9.公害と汚染 10.その他(災害など)	個別目標8
①自然領域：1.河川と水資源, 2.森林と木の利用, 3.生物多様性 ②社会領域：7.気候変動, 8.資源とエネルギー, 9.公害と汚染 ③生活領域：4.農と食, 5.住まいと暮らし, 6.衣生活						よりよい環境を 目指して みんなで取り組む
自由学園 環境教育9分野						施策の方向
						①環境活動のすそ野 を広げ, 高める ②連携を深めて, みんなで取り組む
						各種活動 →アンケート参照

# 市環境基本計画個別目標と各種計画・長期総合計画

私たちは、湧水と緑に恵まれた東久留米を誇らしく思っています。  
 それが当たり前、放っておいても存続するように思いがちです。  
 しかし、それは先人の代から守り育ててきたものなのです。  
 循環・再生を考えずに、消費するばかりとなつては荒廃をもたらしかねません。  
 恵みに対して謙虚に向き合い、将来の世代へ継承する必要があります。

## 長期総合計画

- 基本目標「地球環境にやさしいまち」
- 施策1「水と緑にふれあうまちづくり」
  - 基本事業1-1「水辺環境の保全と活用」
  - 1-2「緑の保全と活用」
- 施策2「環境負荷低減の推進」
  - 基本事業2-1「総合的環境施策の推進」
  - 2-2「資源循環型社会の推進」



# 森林環境譲与税充当 向山緑地若返り事業

## 向山緑地・立野川源流域：水源の森（川のはじまりが見られるお山）

古多摩川が5-6万年前に形成した崖線の北斜面は、年間を通じて水温が一定(約17度)した豊かな湧水によって冬季の乾燥と凍結をまぬかれた植物等の寒冷期の回避地。古代より平地の雑木林と異なり、常緑樹・ササを土砂流出防止、防風壁維持による崖線土壌の安定の目的で維持し、縁崖林を形成するクリ・コナラ・シラカシ・イヌシデ等や、崖線と湧水の植生を生活に有効に活用していた。  
 (向山遺跡:約7,500年前縄文時代早期末葉に原始集落、縄文ムラが存在していた。当時としては先進的)自然環境、歴史的な面でも極めて貴重な、多世代の学びの場であると考えられる。

### 2013年にその価値が認められ「関東・水と緑のネットワーク百選」

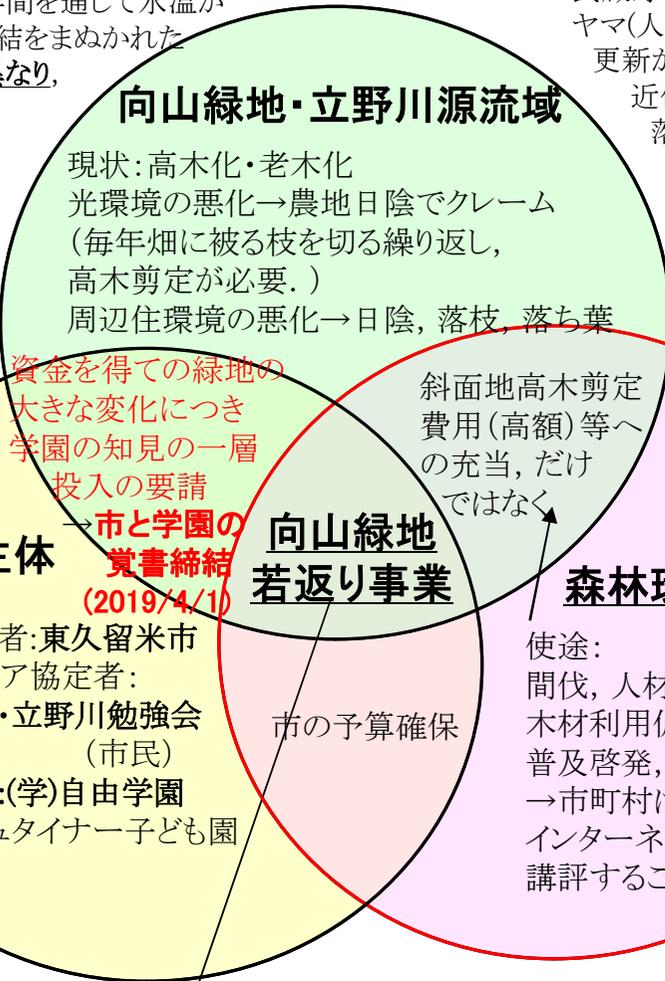
((公財)日本生態系協会・(一社)関東地域づくり協会)に選定。

### 向山緑地・立野川勉強会:2012年2月

市民と(学)自由学園により発足。同年3月市とボランティア協定締結(学)自由学園:

- ・昭和初期に向山から立野川の1km下流に移転以来90年、立野川・落合川を教育研究の場としてきている(モニタリングを継続)
- ・戦前からの農業生産をはじめ、戦後の害虫駆除や水質改善への研究などの基盤には、周辺の自然環境と生物観察による自然誌資料にもとづく自然環境保全を教育研究として行っている。

・また、1950年の名栗植林以来、毎年の育林・木工教育を一貫教育の中で「木の学び」として実施しており(国内4か所・ネパールで植林・育林)、森林・木材・森林生態系に関する知見を有している。(2018年森林認証SGEC取得。)



## 向山緑地・立野川源流域

現状:高木化・老木化  
 光環境の悪化→農地日陰でクレーム(毎年畑に被る枝を切る繰り返し、高木剪定が必要。)  
 周辺住環境の悪化→日陰、落枝、落ち葉

資金を得ての緑地の大きな変化につき学園の知見の一層投入の要請  
 →市と学園の覚書締結(2019/4/1)

## 関与主体

公園管理者:東久留米市  
 ボランティア協定者:  
 向山緑地・立野川勉強会(市民)  
 団体会員:(学)自由学園  
 シュタイナー子ども園

## 向山緑地若返り事業

市の予算確保

武蔵野の雑木林(二次林)は木材を採取するためのヤマ(人工林)として、定期的な伐採による樹木の更新が行われ持続的な循環利用が行われていた。近代から現代にかけて木質燃料等(薪炭と落ち葉たい肥)の需要が激減するとともに、無秩序な開発や公害が社会問題になると、「樹木の伐採=自然破壊」というイメージが定着し、以降、高木化・老木化に伴う管理上必要な間伐についても理解が得られ辛い状況。

斜面地高木剪定費用(高額)等への充当、だけではなく

## 森林環境譲与税

用途:  
 間伐, 人材育成  
 木材利用促進  
 普及啓発, 森林教育  
 →市町村は用途をインターネット等で講評すること

## 森林環境税:

森林吸収源対策に係る地方財源確保のため

2024FYより  
 ¥1,000/人徴収

↓  
 森林環境譲与税  
 2019FYより先行して交付。

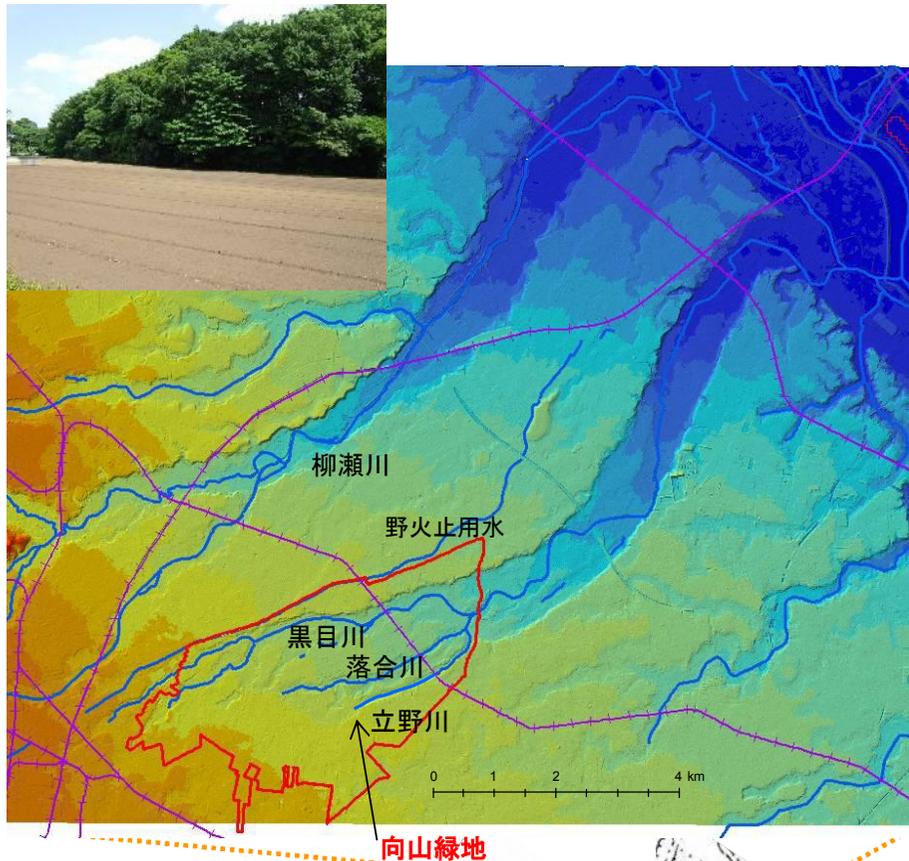
90%(当初80%)を市町村  
 10%(当初20%)を都道府県

各々当該額の50%を私有人工林面積で、20%を林業就業者数で、30%を人口で按分して譲与。

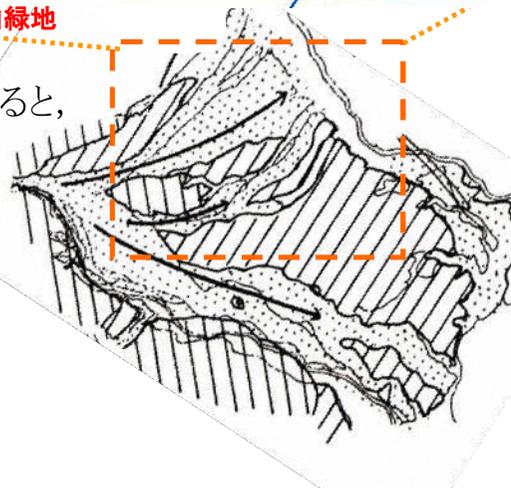
「消極的に保全するみどり」から「戦略的に伐採し保全するみどり」へ

- ①間伐(高切剪定)・下層植生再生事業
- ②萌芽更新事業
- ③森林環境教育(①②による変化のモニタリングを含む。森林環境教育、間伐材の木工等)

# 向山緑地・立野川とは？



等高線 1mをGISで表示すると、5~6万年前の古多摩川の流路の痕跡が見える。その古い流路を利用して新たに立野川・黒目川・落合川が形成された(名残り川という)。



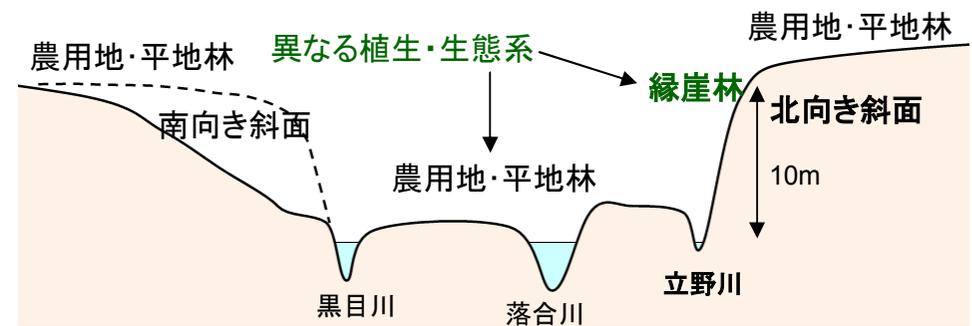
GIS作成: (学)自由学園 杉原弘恭  
Copyright © Hiroyasu Sugihara 2019

東久留米の湧水は主にスポンジのような関東ローム層から出ている。その源は周辺の市を含む広域な降雨である。

地表の舗装が進むと枯れる可能性がある。樹林地, 草地, 農地, 屋敷林, 窪地, (多自然)河川, 地下水涵養施設(雨水浸透ます等)による維持は必須である。

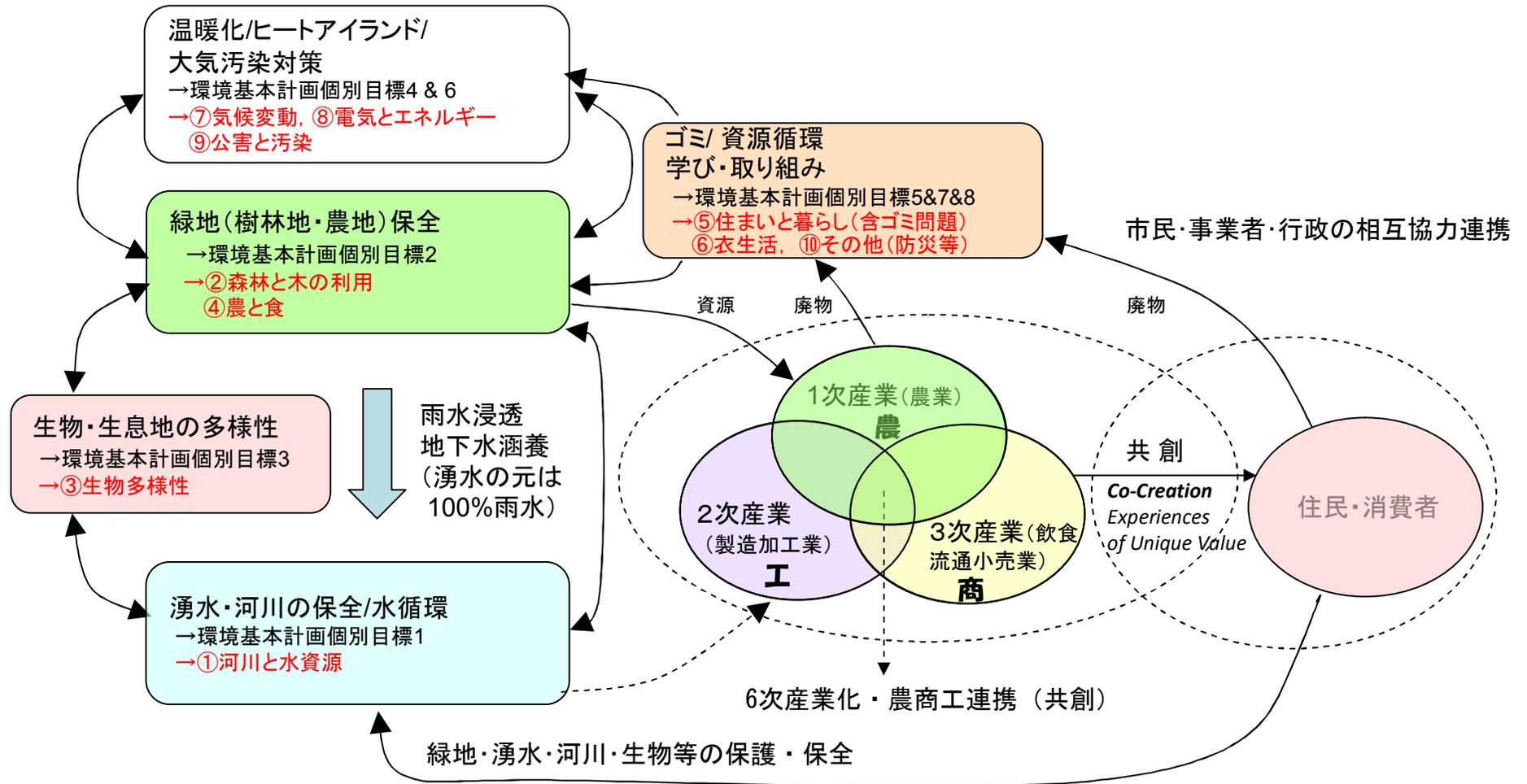
かつては, 大雨が降ると急速に浸透するとともに, 土壌の粒子の間にある火山灰の微粒子による毛細管現象で, 土中の水分は「野水」「出水」「逃水」となって地表面にあふれ出していた。冬は同じメカニズムで大きな「霜柱」が立った。

河川としては, 崖線である関東ローム層の下(山すそ)から川に沿って連続的, リニアに湧出している(明渠排水型)。



- ・人の手が入らない玉川上水をみると, 日当たりのよい南向き斜面は垂直で, 日当たりの悪い北向き斜面は霜柱で崩れている。
- ・人の手が入る当地では, 南向斜面は日当たりがよいので, 古代から山菜採取や農地のために開墾していった緩斜面になっている(土壌流出防止にも緩斜面化は有効). サシ=焼畑 cf.コテサシ, ムサシ
- ・北向斜面は, 霜柱で崩れやすい(ムケヤマ→向山)にもかかわらず, 人はシラカシやササを維持することで, 非常に長い期間, 向山遺跡~近年の住人は, 北斜面を保護してきた。それはなぜだろうか? →北風の防風壁(還流)・土壌飛散防止壁として地形を活かしたことや, 水の利用(明渠排水型導水)があったと考えられる。

# 6次産業化（農商工連携）・共創と自然環境の保全



# (参考) 日ごろ気になっている環境問題アンケート(環境フェス市民回答と大学部1年生回答)

Q1. 日ごろ気になる環境問題について、5つまで選んで番号に○をつけてください。

自由学園大学生 環境フェスタ市民

区分(環境基本計画)	質問項目 (市民が気づく現象としての項目)	2018FY		2019FY		2017FY		2018FY		内容→1~7: 典型7公害(悪臭, 大気汚染, 騒音, 振動, 水質汚濁, 土壌汚染, 地盤沈下)関連
		票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	
個別目標1 湧水や河川を守り活かす	1. 湧水の減少と川の水枯れ	0		2	11	233	6	264	7	水質汚濁(1/7)公害
	2. 川のゴミ・水質汚濁	4		11	3	310	1	415	1	水質汚濁(1/7)公害
個別目標2 緑を守り育てる	3. 樹木の減少	7	5	5	8	175	9	220	9	生物多様性
	4. 農地が消え・宅地の増加	4		5	8	248	5	307	5	生物多様性
個別目標3 多様な生きものを守り育てる	5. 魚や野鳥の減少	8	4	4	9	162	11	220	10	生物多様性
	6. ネズミやハクビシン害獣増加	3		2	11	117	13	167	11	生物多様性
	7. 外来種の草花の繁殖拡大	4		7	6	142	12	165	12	生物多様性
個別目標4 地球温暖化問題へ対応できる くらしをつくる	8. 地球温暖化による気候変動	14	2	15	1	270	3	269	6	地球温暖化
	9. 豪雨時の河川の氾濫	0		3	10	83	16	139	14	地球温暖化
	10. 省エネへの取り組み不足	3		2	11	86	15	80	16	地球温暖化
個別目標5 ごみの減量・再利用・リサイクル を通して資源循環を進める	11. 食材のロス	14	2	13	2	190	8	234	8	廃棄物, 食糧問題
	12. 適切なゴミの処理	8	4	8	5	306	2	391	2	廃棄物
	13. リサイクル状況	8	4	3	10	215	7	329	3	廃棄物
個別目標6 健康で安心できるくらしをつくる	14. 放射能問題	15	1	9	4	167	10	162	13	土壌汚染(4/7)
	15. 工場・事業所による騒音・振動・悪臭	1		3	10	29	21	34	21	騒音(5/7), 振動(6/7), 悪臭(7/7)
	16. 車や飛行機などによる騒音	1		2	11	53	18	71	18	騒音(5/7)
	17. 車・工場などによる大気・土壌汚染	7	5	7	6	45	19	68	19	大気汚染(2/7), 土壌汚染(4/7)
	18. 産廃物などの処理、処分の問題	5		3	10	59	17	73	17	廃棄物
	19. 環境マナー 犬・猫のフン	5		1	12	259	4	325	4	廃棄物, 生活公害
	20. 音響やペット鳴き声など生活騒音	2		2	11	37	20	50	20	生活公害
個別目標7 環境について学び、活動につなげる 個別目標8 よりよい環境を目指してみんなで取り組む	21. 環境を守る市民の意識レベル	10	3	6	7	87	14	95	15	環境活動ほか
その他	22. その他	2		3	10	10	22	4	22	大量生産大量消費, マイクロプラスチック, 外来生物の飼育放棄, (道路等でのゴミ, タバコのポイ捨て, 等

125

116

3,283

4,082

[単位:人]

	No.20(2016)	No.21(2017)	No.22(2018)
来場者数	2,801	2,456	1,758
アンケート回答者数	1,208	1,069	1,158
アンケート東久留米市民の比率	77%	84%	66%

# (参考) 自由学園 環境文化創造に 関わる一貫教育

Curriculum  
Campus  
Communityの  
3つのCを含む

幼稚園～  
大学部

SDGs

